



若木の葉は垂れ下がる。



裏面の側脈は明らかに突出する。



枝振りはホソバタブより弱々しい。

区別のポイント

葉は枝の上方に集まって付く。若木では葉が垂れ下がる。葉は細長く縁は全縁で波打つ。裏面の葉脈（側脈）は明らかに突出する。ホソバタブは突出しない。

形態 常緑高木。高さ 15m ほどで楕円形の樹形。

分布 本州（千葉県以西）・四国・九州・沖縄

名前の由来 葉がこすれる音や燃えるときの音など諸説ある。

葉 **〈全体〉**長披心形または倒披針形で長さ 10～15 cm、幅 1.5～2 cm。

〈付き方〉互生で枝の上部に集まって付く。

〈葉柄〉1～3 cm。

〈基部〉くさび形。

〈葉先〉長く尖る。

〈縁〉全縁で波打つ。

備考 西部。

出典 1 4